

(別紙)

職業実践専門課程 学校関係者評価委員会

日 時 令和3年7月1日(木) 10時~12時

場 所 平成福祉専門学校

出席者(学校関係者評価委員)

委員条件	氏名	所属先	役職
専門分野における 業界関係者	藤村 桂子	社会福祉法人 山寿会 特別養護老人ホーム 湯の里	副施設長
卒業生(同窓会関係)	友草 妙子	介護老人福祉施設 ウエルプラザ高知	介護主任
保護者又は地域住民	下元 一徳	デイサービスまる	管理者
高等学校等の校長及び 進路指導担当者等	大石美智子	元県立高等学校教諭 (進路担当)	
地域の地方公共団体等 の関係者	小川 英治	高知県社会福祉協議会	福祉人材グループ長 兼 高知県福祉人材センター 所長
学校職員	吉岡 成	平成福祉専門学校	校長
学校職員	野村 晃江	平成福祉専門学校	専任教員
学校職員	片岡 史陽	平成福祉専門学校	教務主任

※8名中2名の方が職務により欠席

(別紙)

会議内容【会次第】

1、学校長挨拶

2、学校関係者評価委員紹介

3、本校の概要

(1) 学校の体制

(2) 在籍状況について

(3) 国家試験の結果について

(4) 教育関係

- ・各教科の担当教員について
- ・年間行事予定について
- ・感染症が流行している中での学習計画について
- ・スクールバスの乗車状況について
- ・学生寮について

(5) その他

- ・初任者研修について
- ・実務者研修について

4、学校評価実施報告

5、質疑応答ならびに意見交換

会の中で出た意見等は別紙のとおりです

(別紙)

職業実践専門課程 学校関係者評価委員会 (報告書)

(会の中で出た意見)

●国家試験の結果の中で、「去年は自己学習の時間が多かった」と報告したことについて。

一人では集中してできない者もいるかもしれないので、学校で学習する指導も必要。「やっておくように」ではなく「導かないとやらない」と思う。

介護福祉士の資格の経過措置として、試験は不合格でも定められた期間就労することで取得できること、資格を持っていてもいなくても給与はほとんど変わらないことなどが、勉強の意欲につながっていない原因ではないか。経過措置はメリットでもあるがデメリットでもある。

○卒業した不合格者のフォローはしているか？模試の案内を出してはどうか。在校生と一緒に模試を受けるようにすることで、在校生には刺激があるのではないか。

○内定をもらった施設で、学習する機会を作っていただくと、資取得に対して意識を高めることにつながると考えるが、そのことについて意見を仰ぐ。

施設に協力を得れるのであれば、効果はあるのではと意見がある。

●実習施設の中から「実習に参加する施設が偏っているのでは」と間接的に耳にしたので、打合せ会の中でどのような順序で施設を決定しているか説明をしたことを伝えた。

決定方法に意見はなく、学生の主体性を尊重した方法に公平性があると意見をいただく。その上で不参加の施設に、打合せ会の報告書を送ったかどうかと話がある。送ってはいないと伝える。送ることで「知らないとは言えない状況になる」のではないか。また受入れると手を挙げた施設は、学生を育成する責任があるため、打合せ会へ参加する責任があると思うが。

●実習を学生が選択する時に、自分で通学することが可能な施設を検討している。交通手段が徒歩や自転車だけの者が多いため、結果として自宅や学生寮近辺の施設を希望する者が多い現状がある。結果として実習を依頼する施設に偏りが見られている。以前、ある施設から「送迎しても良いか」と問い合わせがあった。学校としては、「自立」を増やすために送迎は想定していなかったのだが、施設の選択を狭めていることにもつながっていると感じる。そのことについてどう思うか意見をうかがう。

送迎が可能な施設は、良いと思う。保護者の許可や、事故が起こった時の想定をする必要がある。

●学校評価アンケートの中で「爽快」は誰に配布しているか質問がある。

学生（保護者）と実習先と高校と外部講師に配布している。学生には「自立」の意味で、保護者へ自分から渡すように伝えていると話す。

誰に配布するか対象者を絞って作成したほうが良いのではないか。今の中身は、学校の広報のための中身ではないと感じる。「読んでいない」人が多いが、寮生には保護者へ郵送しているか。

(別紙)

●介護業界は人材不足と言われているが、全国的には増えている。高知県も人材を増やそうと高校生に対して ICT やノーリフトケアの講義をおこなうなど、対策をとっている。色々な策を考えていきたい。

●寮生が多いことに驚いた。学校のことが知れて良かった。